

# 検査値のしおり



## 広島大学病院 検査部

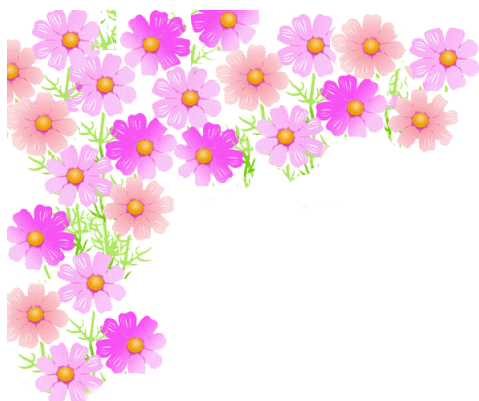
病院での検査、とても気になりますよね。検査にはたくさんの項目がありますが、その中で、最もよく用いられるものに限ってご案内します。  
ここに記載されていないものについては、主治医にご相談ください。

その前に基準値・基準範囲について、少しお話をいたします。

みなさまは、基準値という呼び方になじみがないかもしれません。少し前まで正常値という呼び方をしていましたから。実は、多くの検査値において、その目安となる値は健常と思われる多くの成人を測定して、その分布の中央値を含む95%の人が含まれる範囲と決められています。従って、健常であるにも関わらず、検査値としてはその範囲外になることもあるのです。また逆に、病気があるにも関わらず、検査値としてはその範囲内にあることもあります。そのため、誤解を少なくするために、最近では基準値・基準範囲という言い方をするようにしています。

基準値・基準範囲についてもう少しお話しいたします。

先ほど、「多くの検査値は健常と思われるたくさんの人の中央値を含む 95%の人が含まれる範囲をもとに決めているというお話をしましたが、検査値の中にはそれ以外の決め方をしているものもあります。例えばコレステロール値ですが、これは上記の決め方をすると上限は 248mg/dL になります。しかし、今までのいろいろな調査の結果、コレステロール値が 220mg/dL を超えると動脈硬化による心筋梗塞の死亡率が急激に増加するため、日本動脈硬化学会で 220mg/dL 以上を高コレステロール血症と決めています。この場合は、臨床判断値（臨床的に診断、治療、予後の判断を下す閾値）といい、基準範囲とは異なっています。



基準値・基準範囲は、機器・試薬の違いなど種々の要因により、各医療機関によって若干の違いがあることがあります。

当院では J C C L S（日本臨床検査標準協議会）が「共用基準範囲」として設定した多くの基準値を採用し、基準値の標準化に努めています。

### 本しおりの使用上の注意

- ・ 本しおりにおいては、「疾患名」についても若干記していますが、あくまで参考程度になさってください。
- ・ 一つの検査項目について“基準範囲”から外れたからといって、病気とは限りません。



**詳しくは主治医にお聞きください。**

当検査部は 2015 年 3 月に ISO 15189 の認定施設となりました。

日頃より、検査の品質の維持・向上に努めております。